

未来の自分をつくる

「めざす働き方」実践講座 Vol.11



仕事と暮らしの研究所 代表 鹿野 和彦氏

1991年に広報PR&人材育成支援等を行う株式会社アプレ コミュニケーションズを設立、2001年には仕事と暮らしの研究所を設立して労働組合・大学・自治体などのシンクタンクとしてサポート事業を展開。大正大学キャリア教育研究所招聘研究員、労働組合・各種団体の客員研究員。著作のテーマは人材育成、教育・社会問題、広報関係等幅広い。

めざす働き方を実現する (3) / 自らの知識・スキルを変える

「めざす働き方」を実現するためには、自らの意識を変え、行動を変革していくことが必要ですが、行動変革とあわせて知識・スキルを習得していかなければなりません。今号では、「めざす働き方」を実現するためには、どのような知識やスキルを習得していくべきなのか。また、そのためにはどのような学習を重ねていけばいいのかといった点について解説します。

「時代」「技術／商品」「仕事」「自分」を軸に知識&スキルの見直しを図る

「めざす働き方」を実現するためには、今の知識&スキルを時代の変化に対応できるもの、また自分の働くことに対する価値観を生かせるものに変化させていく必要があります。具体的には、次の4つのカテゴリーを軸にした学習が求められるでしょう。

1. 時代の変化を読み取る知識&スキル

第6回の記事でも紹介したように、時代がどのように変化していくかを知るためには、日々のニュースをきちんと把握するとともに、未来を予測する書籍や雑誌にも目を通していくべきです。

また、テレビやイベント等で、未来を予測するような番組や催しものがあったら、視聴してみる、参加してみるのも有効です。

なお、損保労連の運営するホームページ「未来創造PT『めざす働き方』を考えよう」では、最近のニュースを題材に「時代の変化」を先取りした記事を配信しています。そうした記事を参考にして将来の変化について考えてみるのもいいでしょう。

2. 技術／商品の変化を読み取る知識&スキル

「1」であげた項目は、マクロ的な変化を読み取る際には重要ですが、とすれば、論じる視点が大きすぎて漠然とした変化の予測しかできない可能性があります。そうしたときには、自分が所属する業界や自分の仕事内容と関わりのある技術や商品が、どのように変化していくかを学ぶこ

とで、自分自身に及ぼす影響をより具体的に把握することが可能となります。また、直接携わっている業界・仕事以外にも、例えば関心のある業界・仕事の「技術／商品」の変化を把握することができればより視野が広がります。くわえて、これから成長が見込まれる産業や新たに生まれる産業・仕事について関心を持つこともポイント。就職活動をしていた学生時代を思い出して、いわゆる「業界本」を読んでもみると新たな発見があるかもしれません。

3. 仕事（ワークスタイル）の変化を読み取る知識&スキル

今、注目されている「働き方改革」は、将来の国のあり方を見据えて働き方を変革していこうというものです。働き方改革のめざす方向がどのようなものなのか、政府（国）はどのような見通しを持ってワークルールを変えようとしているのかを把握することで、自らの「めざす働き方」をより具体的に考えることができるのではないのでしょうか。

4. 自分自身を掘り下げる知識&スキル

時代や働き方の変化に合わせてだけでは「めざす働き方」は実現しません。働くことに対する自分の価値観を明確にしたり、自分の行動特性や考え方の特徴を把握することで、自分にマッチした働き方追求していくことが望まれます。

また、「現時点」の「自分」の視点で自身を掘り下げるだけでは、顕在化していない自分らしさを明らかにすることはできません。働くことに対する価値観や行動特性、考え方が自分とは異なる人と接したり、書籍などを読むことも重要です。自分自身を掘り下げるための「思考技術」（フレームワーク）の習得に努めることも重要でしょう。

〔知識&スキルを見直すうえで必要な4つのジャンル〕

1. 時代の変化を読み取る知識&スキル
2. 技術／商品の変化を読み取る知識&スキル
3. 仕事（ワークスタイル）の変化を読み取る知識&スキル
4. 自分自身を掘り下げる知識&スキル

知識&スキル習得の場は多種多様
学びのスタイルを身につけよう

新たな知識やスキルを身につけるときの、真っ先に思い浮かべるのが、テキストを使った学習や社内外の研修に参加することです。また最近では、インターネットを活用したeラーニングを受講する機会も増えており、学びの場は多種多様だといえるでしょう。

しかし、学びの場が多様化しても、個々の特性にマッチした学びのスタイルを知らないと、せっかくの学びの機会も効果が半減してしまいます。

下記の点に注意して、効率的・効果的に知識&スキルを習得しましょう。

1. テキスト（一般書籍でも可）で学ぶ

テキストの特徴は、知識やスキルが体系的に整理されており、繰り返し読めること。また、文字を読むことで考える力は向上します。なぜならば、現象や状態を言語化すること自体が論理的な思考を働かせる行為であり、知識を体系的にまとめられた本を読むことで、雑多な知識が論理によって整理され、物事を考える基盤を形成するからです。下記の要領でテキストを読み込みましょう。

- テキストを一通り読み、全体感を捉える
- 章ごとに精読し、重要箇所、疑問箇所アンダーラインを引く。疑問点、不明点は調べる、聞く
- 章ごとに学んだことを箇条書きで整理する
- 自分の意見があれば書き込む

2. 集合研修に参加して学ぶ

集合研修のメリットは、講師と直接やりとりできるとともに、ほかの受講生の意見や考えを聴くことで、視野を広げることができる点にあります。受講に際してはそうした特性を生かしていくことが必要です。

- 講義中はメモをとる（話し言葉は流れやすい。メモをとることで知識が定着）
- 疑問点等があれば積極的に質疑をする
- ほかの参加者との交流を図る。研修後にも連絡がとれるよう名刺やアドレスの交換を行う
- グループワークが実施される場合は、すすんで議長、または発表の役割を担う（多様な意見を整理する力が向上）

3. eラーニングを活用して学ぶ

eラーニングは、ネット環境と情報端末があれば、いつでもどこでも隙間時間を使って自分のペースや理解度に合わせて学ぶことが可能です。しかし、一般に知識の習得をめざすものが多く、スキルの習得に対応したものが少ないのが欠点です。また、隙間時間を使った学習になりやすく、モチベーションの維持も課題だといえるでしょう。

- 学ぶ時間をきちんと確保する（個人の裁量に任されることが多いため、意識的に確保しないと学ぶ時間がとれない）
- ひとつの単元が終わった段階で、学習内容を要約したり、自分の考えや意見をノートなどに書き込んでおく（細切れの学習になりやすいため、単元ごとに整理する時間を確保する）

4. その他の学習方法

「めざす働き方」を実現するための知識やスキルを学ぼうという意欲があれば、いわゆる教材や研修を活用しなくても学ぶことは十分可能です。

最も有効なのは人から学ぶこと。できるだけ多様な業界・職種・年齢の方と交流し、視野・視野を広げていくことが大切です。また、趣味や遊びをとおして体験知を増やしていくことも重要で、仕事以外の体験から学んだ事柄が、人としての可能性を広げてくれます。

知識&スキルを高めるためには
学習－思考－実践－検証が大事

学校教育の基本的な学びのスタイルは、「予習－授業－復習」のサイクルにあります。

学習効果を高めていくためには、事前に自分なりに情報を集めて授業で学ぶ事柄の受け皿をつくっておくことが有効ですし、授業で学んだことをしっかり自分のなかに取り込むためには、授業内容を振り返り、ポイントを整理しながら自分の理解度を確認する行為が欠かせません。

ビジネスにおいても同様に、まずは「学習」が重要です。「めざす働き方」を実現するための学びには、予習と復習が大事。知識、スキルが着実に身につく学習スタイルを構築すべきです。

くわえて、ビジネスパーソンに求められるのは、「学習」後の「思考」と「実践」「検証」。学習した事柄を無条件に吸収するのではなく、自分ならどうするのか。ほかに方法はないのか、といった具合に思考を広げ、学習した事柄を自分の仕事に生かしていく「思考」のステップが欠かせません。

同時に、学んだこと、考えたことを実際のビジネスシーンに活用してみる。「実践」をとおして知識やスキルの定着を図り、血肉化していくことが肝心です。また、実践の後には自分がどこまでできたのか、何が課題なのかをきちんと「検証」すること。「学習」－「思考」－「実践」－「検証」の学びの4ステップを繰り返すことがポイントです。

● 学びの4ステップ

- 学習：予習－学習－復習で知識、スキルを吸収
- 思考：学んだことを自分の仕事に置き換えて考える
- 実践：実際に仕事に活用して知識、スキルを定着
- 検証：実践を振り返ることで血肉化を図る

本シリーズは損保労連ホームページにも掲載しています
(URL : <http://www.fnio.or.jp/mirai2/>)

特設サイトはこちらからも読み込めます→

